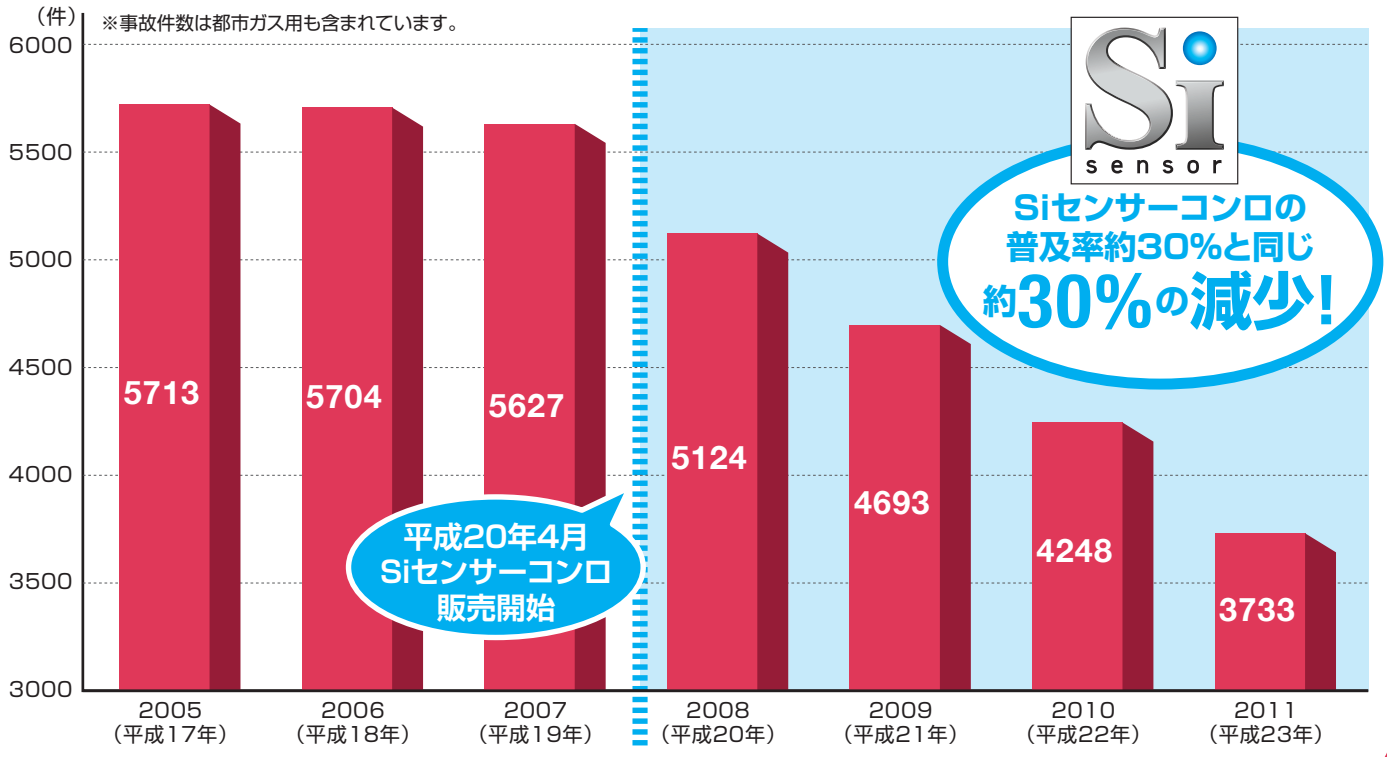
LPガス
人と地球にスマイルを

お宅のガスコンロには火災事故を防ぐための、温度センサーが付いていますか？

ガスコンロ火災の原因で、もっとも多い「消し忘れ」の防止を目的に
平成20年4月以降に出荷されたガスコンロはすべてのバーナーに温度センサーが
装備され、ガスコンロ火災は30パーセントほど減少しています。

ガスコンロを原因とする火災件数の推移



◎2006～2012年版消防白書（総務省消防庁）より作成

温度センサーのはたらき

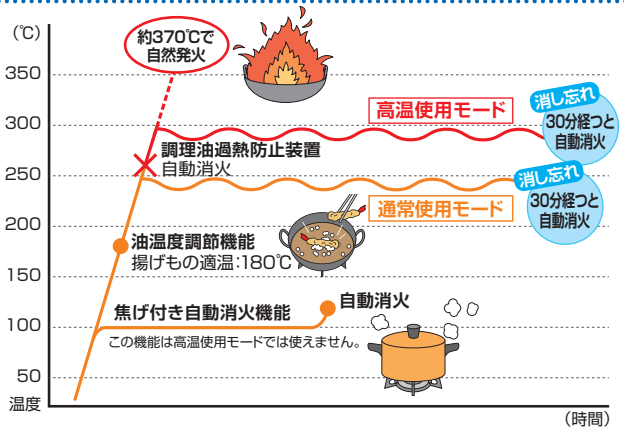
温度センサーは鍋底の温度を検知して、ガスを自動制御します。

通常使用モードの場合

このモードのときは、火力を強くしても最高温度が約250以上にならないように、一般的に240℃～250℃で火力を自動調整します。さらに、温度が250℃より上昇した場合には、自動的に消火して油の発火を防ぎます。

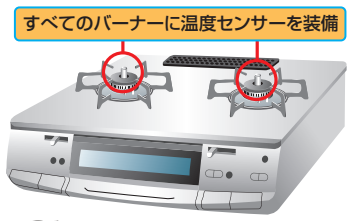
高温使用モードの場合

通常使用モードより、より高温の約290℃までの高温調理ができるモードです。一般的に275℃～290℃になると自動で炎を小さくし、これ以上の温度上昇を防ぎます。さらに、温度が290℃より上昇した場合には、コンロの異常過熱を防ぐため自動消火します。



LPガス安全委員会／経済産業省

Siセンサーコンロは「安全性」「便利性」に
優れた、進化したコンロです。



全口センサー搭載 Siセンサーコンロ

安全機能

消火

■調理油過熱防止装置
温度が250℃より上昇した場合には、自動的に消火して油の発火を防ぎます。

■消し忘れ消火機能
点火後、コンロは約1～2時間後、グリルなら約15～20分後に自動で消火し、万一の消し忘れによる事故を防ぎます。

■焦げ付き消火機能 ※
鍋底の焦げはじめを感知し、自動で消火して空焚きを防ぎます。

小火

■鍋なし検知機能 ※
鍋を置かずに点火しても着火しません。
調理中に鍋を持ち上げると小火になり、袖口などへの引火を防ぎます。

止める

■立ち消え安全装置
煮こぼれや風などで万一火が消えてしまっても、自動でガスを止めます。

便利機能

■油温度調節機能 ※
揚げ物が適温になるまで加熱した後、自動的に適温をキープします。

■自動炊飯機能 ※
炊飯専用鍋とセットで自動炊飯します。

■湯わかし機能 ※
お湯が沸いたら自動的に消火します。一定時間保温したあと、自動消火するタイプもあります。

■オート調理（オートグリル）※
グリルを使って素材や料理の状態に合わせて火加減を自動調節し、焼き上がれば自動消火します。

※機種によっては装備されていない機能があります。

Siセンサーコンロへのお取替えのおすすめ

ガスコンロにはすべてのバーナーに温度センサーが付いている必要があります。
すべてのバーナーに温度センサーを装備した「Siセンサーコンロ」へのお取替えをおすすめします。

調理以外に使用しないでください。

コンロは調理を目的に製造されています。他燃料の火起こしなど調理以外の目的に使用したり燻製に使用したりすると、不完全燃焼や器具の過熱による事故や火災の原因となります。メーカーの取扱説明書に従って正しくご使用ください。

◎現在、販売されている家庭用ガスコンロはすべてSiセンサーコンロです。

ガスコンロの点検・修理の連絡先（記入欄）

※点検・修理の連絡先は、あらかじめ取扱説明書や器具メーカーのホームページ等で確認してください。

	品名・器具名	メーカー名	購入年月	点検・修理の連絡先
①				☎
②				☎

安全なガス器具への
ご相談は…

LPガス安全委員会ホームページでも詳しい情報をご覧いただけます。http://www.lpg.or.jp/

LPガス安全委員会
2013.2